

## 第16回生活科学系コンソーシアム総会 議事録

日時 2023年5月15日(月) 17:00~18:30

方法 ビデオ会議 (Zoom)

出席者 (敬称略 あいうえお順) 合計 30名

構成学会 13学会 20名

国際服飾学会	河上繁樹	安蔵裕子
生活経済学会		倉田あゆ子
日本衣服学会	村上かおり	
日本家政学会		藤井恵子
日本家庭科教育学会	堀内かおる	綿引伴子
日本健康心理学会	田中共子	
日本消費者教育学会	大藪千穂	柿野成美
日本食品衛生学会	小西良子	加藤公子
日本食品科学工学会		上菌薫
日本繊維製品消費科学会	牛田智	大矢勝
日本調理科学会	綾部園子	中澤弥子
日本保育学会		小川清実
服飾文化学会	玉田真紀	田中淑江

家政学分科会委員 10名

阿部栄子 小川宣子 工藤由貴子 重川純子 守随香 杉山久仁子 鈴木恵美子  
多屋淑子 都築和代 宮野道雄

欠席者

構成学会 2学会

日本健康医学会 日本健康科学学会

家政学分科会委員 1名

池田彩子

配布資料

資料1 出席者名簿  
資料2 生活科学系コンソーシアム第37回会議議事録(案)  
資料3 2022年度活動報告案  
資料4 2022年度決算報告案  
資料5 2023年度活動計画案  
資料6 2023年度予算案  
資料7 構成学会の会長及び連絡担当者の氏名及び連絡先一覧  
資料8 分科会委員の氏名及び連絡先一覧  
資料9 会費入金依頼

守随副会長司会のもと審議に先立ち資料1の名簿順に自己紹介が行われた。

## 議題

### (1) 生活科学系コンソーシアム第 37 回会議議事録の承認

杉山会長より議事録案（資料 2）が説明されたが、事前回覧がなかったため本会議の最後に確認することとし、議事の最後に第 37 回会議議事録として承認された。

### (2) 2022 年度活動報告

杉山会長より、2022 年度活動報告案（資料 3）が説明された。2022 年度は会議 3 回、総会、シンポジウム主催 2 回（「With/Post コロナ社会と人の生活」シリーズの 2 回目及び 3 回目）、博士課程論文発表会がいずれもオンライン（zoom）で開催されたことが説明され、承認された。

### (3) 2022 年度決算報告

鈴木会計担当委員より、2022 年度決算報告案（資料 4）が説明された。2022 年度は会議及びシンポジウムがオンラインで行われたため会議費等の支出がなかったこと、博士課程論文発表会については表彰状の印刷費、送料等の支出があったこと、アルバイト代の時給は 1,080 円としたことが説明された。多屋監事から監査報告があり、承認された。

### (4) 2023 年度活動計画

杉山会長より会議等の開催方法の追記を行ったうえで 2023 年度活動計画案（資料 5）が説明された。2023 年度は第 38 回、第 39 回、第 40 回会議をそれぞれ 2023 年 9 月、12 月、2024 年 3 月末に開催することとし、9 月はオンライン予定、以後の 2 回は対面やハイブリッド開催も検討すること、第 16 回総会はオンライン開催（今回）、シンポジウム主催 1 回及び博士課程論文発表会は対面やハイブリッド開催も検討すること、また、現時点での後援名義使用予定が 3 件であることが説明され、承認された。

### (5) 2023 年度予算案

鈴木会計担当委員より、記載の一部を修正のうえ 2023 年度予算案（資料 6）が説明された。ホームページ関連費は昨年度と同額、会議費は対面 2 回の予定のため減額、シンポジウムは最低賃金の変更に伴い昨年度よりアルバイト代を増額、博士課程論文発表会についてもアルバイト代の増額を行い、発表者は 8 名を想定したことが説明された。説明に対して 3 件の質問があった。博士課程論文発表会の昨年度実績に対して通信費が減額されていることについては対面になることによって表彰状等の郵送費が減額になること、ハイブリッド開催の場合には、発表者は対面参加を想定しているのかについては原則その通りであることが担当委員から説明された。会場費の高騰が懸念されることについては、杉山会長から原則、収入に見合う支出で予算立てをしているので若干厳しい面はあるが、新型コロナ感染症対策の変化を見据えつつ、繰越金による対応も考えたいとの説明がなされた。さらに、予算増減欄に昨年度比較における減額のマークがないことへの指摘があり、会議の資料提示画面上で修正したうえで、杉山会長が修正した資料を委員全員に送付することとした。以上、確認のうえ、2023 年度予算案は承認された。

### (6) 第 13 回シンポジウムについて

杉山会長より 12 月開催を予定しており、9 月の会議に向けてメールで相談したい旨、説明された。これまでの経緯としては「With/Post コロナ社会と人の生活」をテーマに 3 回シリーズで構成学会の協力を得て行った。第 13 回シンポジウムはこれまでとは異なった視点で行ったかどうかと考えている。以前実施したアンケート調査では「持続可能性 (SDG s)」が共通のキーワードとしてあがってい

たと思われる。審議の結果、5月末～6月初めに構成学会宛アンケートを送り、6月末までに意見を求めることとなった。

(7) その他

特になし。

#### 確認事項

(1) 構成学会の会長及び連絡担当者の氏名及び連絡先

守随副会長から連絡先一覧（資料 7、8）に変更がある場合は事務局までメールで連絡してほしいとの依頼がなされた。

(2) 2023 年度会費について

鈴木会計担当委員より、資料 9 に基づき、構成学会への会費納入に関する依頼がなされた。

(3) 構成学会の 2023 年度行事予定について

守随副会長より、各構成学会の 2023 年度行事予定を、ホームページ掲載の様式を用いて事務局までメールで連絡して欲しいとの依頼がなされた。

(4) その他

特になし。

#### 報告

(1) 構成学会から

2023 年 4 月以降に実施した取組及び今後の取組予定について報告が行われた。

(2) 家政学分科会から

杉山会長より子育て支援に関する「報告」を取りまとめ中で、査読結果に対する回答などを審議中であり、まとまった時点で提示したいことが報告された。

以上